

茶ぐわ〜ゆんたく



158

デイゴの花を思い浮かべて
〜県道81号線・でいご通り〜

上の写真は、1966（昭和41）年、普天間三叉路からでいご通りをみた風景です。当時は写真に写っている映画館「グランドパレス」やホテル、大型レストランなどが並び、多く賑わっていた通りです。でいご通りは、普天間にあったマツ並木に憧れ、マツに代りデイゴを街道に植えて沖縄の観光名物にしようと、地域でパン屋を営んでいる方が1964（昭和39）年に取り組み始めたことが名称のきっかけでした。思わず、デイゴの花いっぱい鮮やかな通りを想像しますね。



▲でいご通り（普天間）1966（昭和41）年
写真の左側に「グランドパレス」の看板が見えます。

下の写真は現在の様子です。映画館はなくなっていますが、当時の面影を感じます。通り沿いには古着屋やカフェなど、お洒落なお店が並び、若い世代に注目の場所となつていきます。また市内商店街で構成する「でいご通り会」は、2015（平成27）年に「ぎのわんヒルズ通り会」と名称を変更し、活動を再開しています。現在街道には、マツやモモタマナが植え付けられています。写真の場所にデイゴはありませんが、車で通る際や歩く機会がありましたら、当時の雰囲気想像しながら通ると面白いですね。

【問合せ】
市立博物館 ☎870-9317



▲現在の様子 2017（平成29）年

ぎのわんの 歴史・文化遺産

を歩く

—其の32—

はじめに

今回は市内でも比較的新しい時期にできた字上原・字中原・字赤道・字愛知・字志真志の遺跡をいくつか紹介したいと思います。
ぎのわんの屋取集落

市内には、約四五〇年頃前にはすでに存在していた集落があります。右に挙げた地域は約二〇〇〇〜三〇〇〇年頃に人々が住み始めてできた集落であるといわれています。これらの集落は、琉球王国時代の土族層が新たな生活を求めて首里や那覇を離れ、各地に移り住んだことでつくられた集落であり、これを「屋取集落」といいます。

屋取集落以前の遺跡

では、屋取集落ができる以前は一切の人が立入らない場所だったのでしょうか？結論から言うと、そうでもなかったようです。たとえば、先に挙げた五つの字でも複数の遺跡が把握されていますが、中でも赤道渡呂寒原洞穴遺跡、愛知ウフドーモー遺跡、志真志大久保原遺物散布地などは縄文時代の後期や晩期頃に相当する遺跡となっています。また、上原仲毛原遺跡、中原同原遺跡などは

約五〇〇年頃前のグスク時代につくられた遺跡であることが想定されており、屋取集落ができる前にも当時の人々が何らかの活動をしていたことが分かります。一方で、字長田には今のところ遺跡の確認がされていないのですが、メーミージガーやカッチンダーガーなどの湧水が文化財として把握されているので、将来的に遺跡が見つかる可能性があります。

遺跡と開発工事

これらの遺跡については所在が把握されているのですが、発掘調査などが未実施であるため各遺跡の詳しい情報は分かっていません。遺跡のある場所に開発工事の計画がされたときに開発者側と遺跡の取扱いを協議し、場合によっては発掘調査を行って遺跡の記録をとることにになります。発掘調査によって得られた記録は、整理をしたのちにその情報を地域の皆さまにお伝えし、皆さまが歴史や文化を学習する際の生きた教材として活用されることになりました。開発工事などを予定されている方には、その場所に遺跡が所在していないかのご確認をいただいておりますので、ぜひ文化課までお問い合わせください。

【問合せ】文化課 ☎893-4430